

大分類 2 のポスターセッションは、3 月 19 日の夕方に行われた。今回のセッションでは 81 件ものポスター講演があり、また学生の講演が非常に多く見られた。全般的に、蛍光体を用いた放射線検出に関する研究が 8 割以上であり、多様な系を用いた放射線誘起蛍光特性と、それを利用した線量計測に関する講演が多く見受けられた。本会の Poster Award に 2 件の講演が選ばれ、また放射線分科会学生ポスター賞に 8 件の講演 (<https://annex.jsap.or.jp/radiation/prize3.html>) が選ばれた。

中分類 2.1 では 3 月 17 日午後より計 17 件の口頭発表が成された。前半は神戸大小田研による飛跡検出器に関する報告が数多くなされ、中盤はガス検出器、半導体検出器、後半は東北大浅井研を中心として様々なシンチレータに関する発表がなされた。本セッションにおいては、秋田大の河野直樹氏による講演奨励賞受賞記念講演が行われた。加えて奈良先端大を中心に、多くのポスター発表 (3 月 19 日午後) がなされた。口頭、ポスター共に各講演において活発な議論がなされた。

2.2 検出器開発ではシミュレータ開発、線量計開発、シンチレーション検出器開発、半導体検出器開発と多岐にわたる開発について研究発表がなされた。特に、粒子線治療や核医学イメージングへの応用を目指した検出器開発が注目を集めた。また、産総研の藤原健氏による「蛍光ガスとマイクロパターンガス検出器を組み合わせた放射線検出器」と題した放射線奨励賞受賞記念講演が行われた。

中分類 2.3 のセッションは、2 日目 (3/18) の午前と、3 日目 (3/19) の午前および午後前半に行われた。いずれの講演においても活発な討論が進められた。2 日目のセッションでは、主に放射線発生に関する研究として、焦電結晶を用いた X 線発生や加速器中性子源に関するもの、あるいはそれを用いた RI 製造に関する成果が発表された。3 日目の午前には、主に放射線イメージングに関する技術開発に関する成果が発表された。X 線あるいはガンマ線を計測対象とし、それらのエネルギー情報をうまく活用することにより、より高度なイメージングが達成されていた。また、3 日目午後のセッションでは、 $^{14}\text{C}$  の同位体分析の高度化に関する研究成果として、連続講演にて、実用化間近の分析装置についての概要が報告された。さらには、宇宙から飛来するミュオンを用いた大型建造物の構造解析や、天体における中性子分光分析にかかわる機器の開発についての成果が報告された。